

里だより

No.399

令和7年4月1日

一発行一

菊池郡大津町平川400番地

社会福祉法人 清和会

つくしの里

TEL 096-293-1550

FAX 096-293-1579



待ちに待ったバイキング♪

世界の料理と居酒屋
メニューで普段とひと味
違うバイキングで大満足
でした(^^♪



四月号もくじ

施設長より……………1

相談より……………3

主任より……………4

職員より・調理場より……………5

行事報告……………6

研修報告……………7

行事予定・

ありがとうございました・

編集後記……………9



つくしの里 ホームページ

<http://www.tsukushinosato.or.jp>



施設長より

地域情勢と新年度



日本の十八歳の人口が減り始めるだろうと言われた二〇一八年問題から八年目に入りました。大学や公立の高校でも定員割れが出ているようです。少子化対策には授業料や給食費の無償化などの取り組みが始まっているものの、結果はどうなるのでしょうか。以前、二〇二五年問題に触れましたが、第九期に入っている介護保険事業計画の全国集計では二〇四〇年度の第一号被保険者の要介護(要支援)認定者数は八四三万人と想定されています。二〇四〇年度は団塊の世代ジュニアが高齢者層に入る時期とされており、「二〇四〇年に向けたサービスの提供体制等の在り方」検討会なるものが設定されています。少子化のみならず、今後は日本の人口自体が減少していく事になります。人口減少のスピードが地域によって異なるため、地域別のサービス提供モデルや支援体制を構築する必要があるとされています。現に、介護施設では定員数は空いているものの職員不足のため、満床にできないケースや、地域密着型特別養護老人ホームでは、入居者が地域住民に限定されており、その地域の高齢者が減っていることが、入居者数の減少にもつながっているという話も耳にするようになりました。これからの人口構成と地域差では、全市区町村の三割に当たる五五八市町村が人口半数未満になるとされ、特に中山間地域に見られる予想です。ますます福祉サービスの需要に変化をもたらすことになりそうです。

当施設も利用者の高齢化は以前からお伝えしていますが、つまりそれはご家族にも派生しているという事です。ご両親はもとより、ご兄弟姉妹にまで及んでいるのが実態です。利用者支援に目を向けながら、利用者さん越しに見えるご家族やキーパーソンの関りにも今後の見通しが大切になってきます。

国の第七期福祉計画では、施設入所者の六%以上を地域生活に移行。施設入所者を五%以上削減という目標が掲げられています。地域生活ができれば、素敵なことだと思えますし、望まないわけはありません。ただ、受け皿やシステムがないのが現実です。この地域だけなのか、施設を取り巻く環境が今後どのように変わっていくのかにもアンテナを張り、注視していく必要があります。特に当施設がある圏域では、大手半導体メーカーの工場ができ、関連会社の進出、土地単価の上昇、区画整備、人口増加、商業施設の増加等々、目まぐるしいほど大きな変化の波が押し寄せています。その中で福祉施設にどのようなことが求められているのか試されている時期なのでしょう。削減の目標は目標として、私たちが行うことは、施設設立の原点に立ち返り、施設の必要性の質を押し上げていくことに他ならないのかもしれないかもしれません。

施設長 松永 一博

今年度も左記の法人理念その他を掲げ事業計画を作成いたしました。

【法人理念】

「自律と自由」…それぞれの自律にのっとった自由。

- 自由に考えて、自主的に行動し、自律した人間になる
- 自律とは、自分の行動に責任を持つこと

「畏敬と信頼」…お互いの信頼関係に基づく畏敬の念。

- 利用者同士・職員と利用者、職員同士・上司と部下等、それぞれが、お互いの信頼関係を築き上げ、常に尊敬やつつしみを持って相対する

【経営理念】

「私達は地域社会に開かれた、地域社会に愛される、地域社会に信頼される施設であることを目指します。」

【サービス方針】

「私たちは、誰からも満足いただける福祉サービスの提供・改善、情報の伝達に努めます。」

【基本方針】

利用者が、生きがい・喜びを実感し、充実した生活が送れるよう、利用者支援における満足度の向上、重度・高齢化対策、感染症予防、安心・安全のためのリスク管理等を実施する。

施設の設定経緯を慮り、利用者の暮らしを見つめ、利用者理解及び、援助者としての自己理解を深め、さらなる利用者支援の充実、質の向上に努める。また、社会福祉援助者としての価値を見出し、専門職としての円熟を目指す。

【スローガン】

『めくばり、きくばり、おもいやり、ありがとう』

施設PR委員会 今月の1枚!



調理実習でカップケーキのデコレーションが上手に出来ました!

相談より

令和六年度を振り返って



今回はちょうど年度区切りのタイミングですので、令和六年度の相談支援事業所としての動きを振り返りたいと思います。

お陰様でこの一年間も相談支援を通し、たくさんのお会いや学びがあり、充実した時間を過ごすことができました。その反面、上手くいかないこと、予想外の展開になることもあり、頭を悩ませることも多々ありました。もちろん、こちらが主導で進めることではありませんので、思い通りにならないのは当たり前ですが、これまでの経験を生かして、より良い方向に事が進むようにご家族やご本人の考えや想いを汲み取って、助言や提案をするようにしています。正解が何かはすぐには分かりませんが、結果としてご本人の置かれた状況や生活環境が少しでも良くなれば、自分の相談員としての関わりがプラスに作用したのかなと感じます。

最近では成人よりも児童の相談依頼が多くなっています。新規で療育を受けたという保護者さんからの連絡で、大津町内だけではなく、近隣の市町村の方も増えています。特に兄弟児の相談がかなり増えており、担当利用者の弟さん、妹さんの計画書も作ってくださいというケースも多くなりました。家庭環境などの情報は既にある為、極力早めに対応するように心がけています。上の子が療育を受けた場合、早期療育の効果を感じること、ご兄弟にも早めの療育を希望されることが多くなっているのだと感じます。

また、学年が上がってくる中で不登校の案件も増えてきていま

す。週二〜三日しか通えていないケースから全く通う気持ちがないケースまで様々です。高学年になると勉強の難しさについていけない、友達関係の悩み、先生との関係、ゲーム依存など、理由も様々だと感じます。そういった中、学校も交えた会議に参加する機会も増えました。なかなか簡単には解決しないので、長期戦になることが殆どですが、少しでも学校に気持ちを向けられるようにと関係者でアイデアを出し合いながら、議論する場面は心強く、温かみのある空間だなと感じています。関係者が手を取り、チームとなって支援することの大切さを実感する場面でもあります。

通常、半年間に一回しかモニタリングの機会がない為、どれだけ情報を集約できるかは事業所との関係作りを含め、相談員の技量にかかっていると感じます。日頃からのやり取りを密にして、小さなことでも連絡をもらえる関係性を作り、問題が大きくなる前に解決できるような支援をしていきたいです。

令和七年度も出会いに感謝し、しっかりと利用者様と向き合っていて、自分自身も成長させてもらいながら、暮らしの手助けができればと思います。

相談支援専門員 井上 真次



主任より

見方を変える



小川理事長が施設長に就任された当時、「当たり前を疑う」という話をされました。私がいつも頭に浮かぶことの中でも大切に思っている言葉の一つです。

令和七年度の事業計画を説明する職員会議において、松永施設長から、目の前のことが「景色にならないように」という話がありました。令和六年度を振り返り浮上した問題や課題については、真摯に向き合い日常的なやりとりや支援方法の見直しなど、これまで行なってきたこと、日頃行なっていることをより注視し改めていく重要な機会となりました。

私が所属する四班では、年齢や障がいによる心身面の変化、今まで比較的穏やかに過ごしてこられた方に急に起こった変化など、利用者さんの状態の変化が著しく、いつかはと予測していたことではあるものの、変化への対応に少し困惑しているところ です。高齢化、障がいの重度化、それに伴う環境整備、精神面のケア：本来であれば、将来を見据えた支援を何年も前から日常的に取り組む必要があります。しかしながら、利用者さんと長くお付き合いしているにも関わらず、これまで、若年層から将来を想像した支援ができていかなかったなどと思う点が多く、反省しているところ です。

「社会性」や「地域で暮らすということ」を最近よく考えます。利用者さんがいつもとられる行動や職員の関わり方において、施設から一歩外に出ると違和感があることや、自分の生活と比べると、やはり外出や自己決定の機会が少ないと感じるためです。第三者からつくしの里の私達はどうか見られているのか。長く同じ所に勤めていると、感覚が鈍ったり見方が偏ったり、やっていることがルーティンになって当たり前となり、おかしいことや変化に気付きにくくなってしまいます。新入職員からの新しい目だけではなく、疑問点は各々がその都度声を上げ、広い意味でこれまでのイメージを払拭し、自分の「目」を更新し、見方・捉え方、支援方法や関わり方を改めていく大事な一年としたいです。

林修先生の「いつやるの!!今でしょ!!」という言葉が流行したのは少し昔の話ですが、この言葉は非常にインパクトがあり、悪い出来事が起こった時ほど、滞らずに「すぐ行動する」「改革するならば今!」だと思えます。つくしの里が充実した明るい一年となるように、尽力する所存です。今年度もよろしくお願いいたします。

主任支援員 中尾 麻里子



職員より



2月に九州地区知的障がい者福祉協会の合同研修会に参加し、「それぞれの施設で出来る終焉支援。私たちはご利用者の最後にどう向き合うのか」というテーマで、施設で課題となっている高齢期の支援について学びました。いきいきグループに所属し、高齢の利用者さんの支援をさせていただき、担当を持っているので気になることが沢山ありました。終焉と聞くとなんだか寂しいとか、縁起でもないと思うかもしれませんが、どのような人生を送りたいのか、送って来たのか、これからの人生をどう過ごすかを考える良いきっかけだと思いました。もちろん高齢の方だけではなく自分の思いを表出できない方にとっても、何が好きなのか、どんなことをしたいのか、と皆で考える事はとても大切だと思います。利用者さんと関わり、その方がどのような方なのかを知ったり、御家族から御本人の話の聞いたり、長く勤めている職員から昔の話を聞いたりして、少しでも楽しい人生が送れるように、出来る事を考えたいと思います。(支援員 松若)

入職してから4年が経ちますが、今の支援で良いのか、他に良いやり方は無いのか等、悩みの尽きない毎日に頭を抱える日々です。そんな中でも、自分なりに支援に楽しさを見出しています。不安やイライラは利用者さんにも伝わってしまうと思うので。最近で言うと、ちょっとした時間に利用者さんと雑談したり、面談の際に御家族から御本人の昔話や帰省時の様子などを聞いたり、そのような時間を楽しみにしています。職員の表情が穏やかだと利用者さんの表情も穏やかになっているように感じます。入職当初は言葉でのコミュニケーションが困難な方との接し方に悩んでいましたが、今は言葉以外を使ったコミュニケーションも面白いなと感じています。これからもつくしの里が利用者さんにとって安心できる居場所であり続けたいです。(支援員 池崎)



調理場より



昨年10月に行われた秋の里まつりに、娘もボランティアとして参加させていただきました。その時に利用者Mさんにご挨拶をしたのですが、それ以来、似顔絵や色々な絵をお手紙と一緒に、渡していただきます。先日、不覚にも2回目のコロナ感染をしてお休みをいただきましたが、Mさんから娘へのお手紙の中に「お母さんに優しく、大事にしてください」と書いてありました。数名の利用者さんからも「大丈夫?もう治ったね?」と声をかけていただきました。年を取ってくると、若い頃のように優しくされることが少なくなってきたと感じます。しかし、つくしの里では利用者さんの優しさや思いやりに触れ、仲間の励ましももらえます。勤続10年になります。初心を忘れず少しでも恩返しができるようつくしの里スローガン「めくばり、きくばり、おもいやり、ありがとう」を心に刻み勤務していきたいと思っています。(管理栄養士 奈須)

行事報告

※ 2/21 (金) ~ 3/20 (木) の実施分について報告いたします

★ジョギングフェスティバル【2月23日(日) 大津町】

昨年に続き、今年も利用者5名・職員3名で参加しました。日頃の活動での運動の甲斐もあってか、当日は、それぞれのペースで2kmと5kmを走り、見事に完走されました。終了後には抽選会で大津町の特産品であるからいもが当たり、皆さん喜ばれていました。利用者さんからは、「楽しかった」「来年も走りたい」等、来年に向けての意欲が感じられました。

(支援員 井)



★イベント委員会慰労会【3月11日(火) つくしの里】

イモ天のキッチンカー「いもてなし」さんをお呼びし、1年間の思い出を振り返るお疲れ様会を行いました。屋外に机や椅子を準備し、イモ天を食べながら和気あいあいと過ごしました。1年を振り返る写真を見て「あの時の写真だ」「私はどこに写ってる？」など、楽しめました。写真は館内に掲示していますので、つくしの里にお越しの際は、是非ご覧ください！

(支援員 尾崎か)



★バイキング昼食会【3月6日(木) つくしの里】

令和6年度最後の行事食「春のバイキング昼食会」を実施しました。今回は、利用者さんのリクエストをたっぷり詰め込んだメニューでした。カップ寿司、カレーライス、煮干しラーメン、スペイン料理のトルティージャと鶏のディアブル風、韓国料理の豚チヂミ、居酒屋風に揚げ出し豆腐、枝豆、ツナサラダ、フライドポテト。飲み物はノンアルコールビールとカクテルも準備しました。ハイボールやレモンサワーを楽しみにされていた利用者さんにも満足していただけたと思います。年々、バイキング形式での提供が難しくなってきた半数の利用者さんはランチプレートに盛り付けて提供しています。次回は、スタイルを見直し、利用者さんが楽しく、おいしく食べられる食事会を調理場スタッフ、職員と検討していきます。

(管理栄養士 奈須)



研修報告

※ 2/21 (金) ~ 3/20 (木) の実施分について報告いたします

◆令和6年度家族・施設職員合同研修会【2月28日(金) 嘉島町民会館アクアホール】

ギャラリー宏介株式会社 代表取締役 太田 信介様の講話を5名のご家族と共に聞くことができました。

障がいのある弟の絵の才能を世に広めたいと、ご兄弟で起業され、絵画販売・絵画レンタルを中心としながらも、障がいのある方の個性を活かす活動を考え、実践されていました。

弟様との幼少期からのエピソードや現在の活動に至るまでの経緯、ご兄弟として過ごされる中で、移り変わってきたご家族の中での立ち位置や思い、親亡き後や将来についての想いを聞くことができました。

才能を活かし、障がいのある方でも当たり前で能力を発揮する。話を聞いているうへでは、既に成功者として聞こえていましたが、未だ道半ばであり、後世に名を残せるような活躍をしたいと世界規模の活動へ幅を広げられていました。

近年、障がいのある方の芸術活動が注目されており、たくさんの方々が社会で活躍されています。私たち支援者が、日常生活の中で生きがいや支えあいをつくっていく過程においても、より個人を理解すること、知ろうと努力することが今以上に必要であると感じました。
(支援課長 今田)

◆虐待防止・権利擁護研修【3月4日(火) 熊本県庁】

虐待を防止するための、日常の取り組みや虐待が疑われる事案への対応、虐待防止委員会の活性化について研修が行われました。

日常の支援の質を向上させるために、正しい理解のもと、支援スキルを獲得していくこと、組織で情報を共有する事、支援計画書を見直す事、コミュニケーションが円滑である事が虐待防止に必要となります。虐待行為や身体拘束を理解する事は勿論ですが、支援計画に基づき、個人を支えるための支援をチームで共有し、実践していくことができれば、自ずと虐待防止になっていくものだと思います。

施設特有の対人支援と言えるのかもしれませんが、リスク管理や事故防止が先に立ち、自然な発想のもと身体拘束と見られるような対応となっていないか、気づけていないことが無いかを注意しなければなりません。

また、虐待に該当するような事案が無いか確認し、対応する事も重要ですが、それを予防できる取組みや支援が普段から行われている、曖昧な状態をつくらない、放置しないことを虐待防止委員会、身体拘束等適正化委員会の中でも役割をもって実践させていくことが非常に重要と感じました。

これからも障害福祉サービスの従事者としての使命、倫理・価値・権利擁護を十分理解し、支えとなる活動に努めたいと思います。
(支援課長 今田)



◆清水基金国内研修事業【3月8日(土)9日(日) 東京都AP市ヶ谷】

「障害理解、権利擁護などを学び、現場での支援力向上を目指すと共に、リーダー養成にもつなげる」という目的の下、2日間研修に参加させていただきました。全国からおおよそ30名の施設職員が集まり、1日目は「障害福祉の現状や課題」、「障害者の権利擁護と意思決定支援」「事業所の経営」「自閉症の理解と支援」などについての講義、2日目はグループに分かれ事例をもとに討議、個別支援計画の作成を行いました。

今年度3つの研修に参加させていただきましたが、今回の研修でも意思決定支援の重要性が議題にあがりました。どんなに重い知的障害の人であっても、その人の人生を生きてきた経緯があり、その人なりの思い、そして判断があります。適切ではないと周囲から見られていた人々も、支援さえ受ければ、その人なりの決定が出来るという考え方が意思決定支援です。意思決定支援で重要になってくるのが、ストレングス(強み)に着目した支援になります。ストレングスにはその方の人柄や才能、興味関心、抱く願望やその方を取り巻く環境があります。私たちは利用者さんの事をどこまで知っているのでしょうか。まだまだ知らない、可能性に満ち溢れた方が多いのではないかと思います。利用者さんから私たち支援者がストレングスを教えていただき、より深く利用者さんのことを知っていく必要があります。ストレングスを活かし、人生がより楽しく、ワクワクするようなものになるように日々携わっていきたいです。

他にも、日々支援をする中で感じる「ゆらぎ」についても話しがありました。「ゆらぎ」とは、私たち支援者や家族などが経験する動揺や葛藤、不安、あるいは迷い、わからなさ、挫折感などの総称を言います。これらの「ゆらぎ」に直面し、「ゆらぎ」を抱え、「ゆらぎ」という体験から何かを学ぶ事によって、その専門性や技術を学ぶ事が出来ると言います。私自身、仕事をする中で、多くの迷い、悩みがあります。「悩んでいて当たり前」との言葉に少し心が軽くなりました。職員それぞれが抱えている悩みを、個人ではなくチームとして悩む事が出来れば、職員の関係性の構築や、より良い支援に繋がるのではないかと感じました。

研修中に他事業所の方と意見を交換する機会が多くあり、たくさんの刺激を受けることができました。研修で得たことをしっかり現場にフィードバックしたいと思います。また、日知協の倫理綱領に「絶えず研鑽を重ね」とあるように、自分自身のスキルアップの必要性、そしてそれが利用者支援に直結することを改めて感じる2日間となりました。

(支援員 尾崎)

行事予定

☆ 入職式・辞令交付式・永年勤続表彰（つくしの里）

期 日：4月1日（火）

内 容：新卒を含む2名の職員を迎え、5名の職員が永年勤続表彰を受けます。



☆ 靴の訪問販売（つくしの里）

期 日：4月14日（月）

内 容：利用者さん一人ひとりに合った靴をゆっくり選びます。



☆ 利用者健康診断（つくしの里）

期 日：4月17日（木）・24日（木）

内 容：どこか異常がないかきちんと診てもらい今後の体調管理に努めます。



☆ 施設・後見人・家族情報交換会（つくしの里）

期 日：4月26日（土）10：00～15：00

内 容：午前中は全体会として令和6年度の事業報告等、午後は班別交流会を予定しています。

★ふれあう会メニュー★

○カレーライス

○フルーツポンチ

ありがとうございます

今月の掲載分は、
令和七年二月二十一日～
令和七年三月二十日です



誠にありがとうございます。
利用者さんの為に使用させて頂きました。

- 【寄付・寄贈】
- ・今坂 桂子 様
 - ・岩田 二生 様
 - ・清田 すま子 様
 - ・田上 恵子 様
 - ・長島 章子 様
 - ・藤本 美紀 様
 - ・山口 静美 様
 - ・カモメ 様
 - ・村里 和洋 様
 - ・ボランテア
 - ・トキコロ 様
 - ・稲葉 隆史 様
 - ・大塚 洋治 様
 - ・後藤 弘子 様
 - ・田代 千恵子 様
 - ・廣瀬 悦美 様
 - ・古庄 孝光 様
 - ・高見自動車 様



編集後記

つくしの里の桜が咲き始め、春の訪れを感じます。早速お花見をする班もあつて楽しそうです。

四月から新職員が入職します。若さ溢れるパワーが羨ましく、こちらも頑張らないといけないと思えました。新しい仲間が増えるので、職員一同、より一層力を合わせて支援していきます。

令和七年度もつくしの里をどうぞよろしくお願いいたします。



※お詫びとおことわり
里だより担当では、毎月十分注意して、記事の記載、確認をしておりますが、誤字脱字等がございましたら何卒ご容赦していただきたく存じます。